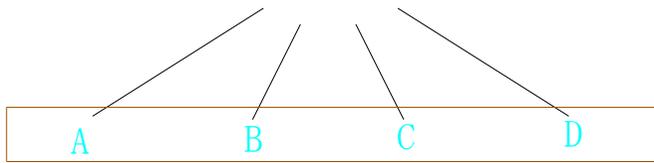


法鏡 1

人の本当の姿を映し出すとされる姿見

七千余巻のお経の中でもっとも唯一真実を書いているとされている。

[大無量寿経]



A—心常念悪 B—口常言悪 C—身常行悪 D—曾無一善

心も口も体もあくばかり一の善もない。  
それはたまにではなくとぎれなく常に悪の心

たとえ話

教壇に講師として僧侶が上記のような話をした。その学校の校長はその仏教の話が大嫌いであった。一度僧侶に直談判したいと思いがあつたところだった。そのチャンスが来たと僧侶の所行きそんな事は教壇で生徒に言わないでほしいとまくしたてた。そんな言をいっただら教師も悪人と言うことになる。それでは教育なんてものが何の意味もなくなるではないか？馬鹿なことを言わないでほしい。と 僧侶は動じる事なくあなたの言い分はよくわかるというような表情でいた。

ちょっと少しばかりお尋ねさせて下さいと問いかけをしていった。

1—あなたは善人、悪人？どちらですか？ 答えにこまってしまった。

2—あなたは「心」は悪いことと教えるべきだと思いますか？それともいいことと教えるべきですか？ うそは悪い事と教えるべきです。

3—あなたはうそをついたことはありませんか？ 答えにこまってしまった。

4—あなたは「口」はいい事と教えますか？それとも悪い事と教えますか？ けんか悪い事と教えます。

5—つい最近ではけんかをしていないと言うことですね？ きのう妻と言い争いの口げんかとしたばかりです。

6—「殺生」はいけないこと教えますか？ 生命のとうさを教えるいみでも殺生はせず仲良くすべきと教えます。

7—では殺生はした事がないのですか？ 答えにこまってしまった。

わかりました僧侶さん。ほんとと自分の心の中にここまで出来ていない事が沢山あるのにきざきました。

仏教では心は主でその下に体や口があると見ている。

心が思う事が口にてて体も反応し行動に出る。

あらゆる現象の主は心 もし人を建物としてそこが火事になった時どうすべきでしょうか？

火事は火元がわからなければ沈下しません。人間にとって火元は心です。

体の悪は法律 口の悪は倫理道徳で管理できるが

根は心の部分にあるのでそこは外面には現れていないしつねに見ないように安全装置がはたらいているようなもの。

まずはこの部分心とはどういうものなのか？内観してみなければならぬ。

みずから安全装置をはずし勇気をもって見姿を直視し「心」のところが悪を理解し自覚しなければ何もその後がないと言うことなんだと言っているように思います。

まずはその勇気はそう簡単には出来そうにないですね。

本気という世界があるとすればたぶん相当な勇気でまた純粹に誠実に法鏡の前に自らをたたせなければならない。